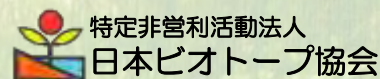


ビオトープだより第2号

会員・BAよりビオトープに関する情報を提供します。



1. 学校ビオトープ勉強会事例

中部地区委員・主席 BA 日高庸次

今回紹介させていただく豊田市立寿恵野小学校は、愛知県豊田市の南部に位置し、学校の北側・南側は水田が開けており、東には清流矢作川が流れる自然環境に恵まれた小学校です。

1999年3月にビオトープが完成し、2010年にはビオトープ顕彰、顕彰委員長賞を受賞しています。

今年度（令和2年4月）から4年生の総合の時間に、ビオトープを題材に「寿恵野の自慢は地球の自慢！ビオトープの魅力 発見発信大作戦！」と題し、テーマを『出会う』・『追及する』・『まとめる』の3つに分け、段階を追ってビオトープについて学んでいます。

7月に、その中の『追及する』〈ビオトープのことを知ろう〉の時間で、4年生115名を対象に講師をさせていただきました。

内容は、「ビオトープに込められた思いを、ビオトープ作りに携わった人に聞こう」ということで、前半は協会冊子の「ビオトープってなあに？」をもとに、ビオトープの説明・生態系ピラミッド・ビオトープネットワークについて話をしました。

後半では、寿恵野小のビオトープがいつ作られて、どのように作ったかを説明しました。

どの生徒も興味津々で話を聞き、夏休みの出校日に登校した生徒の皆さん、お父さんお母さんたちと水辺に草を植えたり、園路に木のチップを引いたり、一緒にビオトープの工事をした話をすると、「生徒たちも一緒に作ったの！」とビックリしていました。

そして今年の2月には、「日高さんに感謝をする会」を開いてくださり、1年間の学びの成果報告を生徒に発表してもらいました。生徒たちのビオトープに対する意識の変化や成長が見られ、今後の活動がすごく楽しみに思いました。

『自然は子供たちにとって最大の教師です』



上：勉強会、下：成果報告の様子





SDGs 《 11. 住み続けられるまちづくりを 》



イギリスの小さなまち トッドモーデン 「自由に食べられる空間の植物・果実などのある町」 Incredible Edible(インクレディブル・エディブル)の活動



「未来を変える目標 SDGs アイデアブック」より引用
©Photographer Estelle Brown of Incredible Edible

このまちでは庭、道沿い、店先、警察署や病院の前、駐車場の端っこなどいたるところに食べられる植物が植えられ、「Incredible Edible（信じられないかもしれないけど、好きなように採って食べてもいいよ）」の看板が掲げられている。

食べ物を育てているんじゃない、コミュニティを育てている

- もともと主婦のおしゃべりから生まれた企画。
- 何か地域のために小さなアクションを起こそう、そのために食べられるものを植えよう、といったのが始まり。
- 殺風景だったまちかどが緑にあふれ、野菜を世話する人、採る人が立ち話をするようになった。観光客もやってきた。
- 活動の輪は、ほかのまちへ、さらに世界へと広がっていった。

普通の住民が気軽に参加できるような計画を考えれば、
まちはもっと素敵になるはず。